



～お葬儀屋さんのひとりごと～

お布施って何？葬儀や法事法要で気になるお布施のこと

お布施と檀那・檀家の関係とは

布施のことを梵語では「檀那（だんな）」といい、梵語の「ダーナパティ」の音写だといわれています。檀那という言葉は、ほどこしや布施という意味をもちます。檀家が所属する寺のことを檀那寺や菩提寺と呼びます。お布施をする人のことを檀越・檀徒といい、お寺にお布施をする家を檀家といいます。経済的に、金銭や衣食などでお寺を支える人を檀徒といい、その家族・家を檀家といいます。



お布施・財施は寺やお坊さんにあげているのではない

お布施は、目の前のお坊さん・僧侶に渡しますが、「あげる」わけではありません。お布施はご本尊に捧げるものです。

お寺側は、人々から受け取ったお布施により、ご本尊をお守りしている寺院を維持して、法務（お寺の仕事全般）をすることができます。また、お布施は、ご本尊を守っていくために活動しているお寺の住職やその家族の生活を助ける役目も果たします。間接的にご本尊を守るために使われていると考えるといいでしょう。

お布施の価値とお布施の相場

お布施の価値を考えると「お布施＝読経・戒名」などと対価と捉えられてしまうことがあり、「お布施はいくらかかるの？戒名料は？」といった疑問がよく出てきます。

お布施は、ここまで述べてきたように、何かへの対価としてのお金（費用）ではないため、決まった金額はありません。

お布施は人それぞれの価値観で決まる

お布施の価値は、その人にとっての価値観で異なります。例えば、大金持ちの人の1,000円と、おこづかいを貯めている小学生にとっての1,000円では、同じ「1,000円」でも価値が変わるでしょう。

法施というお布施に対して、自分の経済的事情の無理のない範囲で財施というお布施を包みます。一方で不明瞭であるために、お布施をいくらくらい包めばいいのか見当もつかなくて困惑する人もいます。

お寺やお寺との関係によって異なるため、何千円から何十万円まで幅が広いです。たくさん包んだから成仏ができるということではなく、その金額に対する価値を感じて包むことが大切なのです。

※本特集では、お布施（財施）を用意する際に全く予想ができない、わからなくて困っている方向けにお布施の相場について、解説しています。これは関東・関西の一部地域の寺院より見聞きした実際の情報を元にしていますが、参考までにご活用ください。